

1 農福連携に取り組んだ経緯

生活クラブ生協で知り合った、障がい児を抱える母親たち4人が、子ども達の将来の働く場所をつくりたいという思いで施設を開設した。特定非営利活動法人として認定され、2013年（平成25年）4月から就労継続支援B型事業所として活動している。

養鶏場の運営は、素人がゼロから始め、日々模索をしてきた。特定非営利活動法人として活動を開始してから、当初は2名しかいなかった利用者が、2022年（令和4年）10月には15名まで増加し、利用者の就労と学びの場になっている。

2 取 組 内 容

- (1) 就労形態：就労継続支援B型事業所。養鶏に関する業務全般
- (2) 就労期間：通年
- (3) 就労時間：（火・木曜日）9:00～13:00（月・水・金・土曜日）9:00～14:30
朝休憩30分、昼休憩1時間 ※日曜日定休
- (4) 平均工賃：（約）20,000円/月
- (5) 送迎：あり
- (6) 昼食：あり（200円/食）
- (7) 利用者の作業内容
 - ①養鶏場の清掃、飼料の配合、給餌、卵の収穫等、養鶏場内作業全般
 - ②収穫した卵の拭き取り、選別、パッケージ化
 - ③農作物の作付け、耕作等の農作業全般
 - ④卵を活用した菓子類の製造



3 生産・販売の特徴

- (1) 卵：「コッコロたまご」
⇒『ゴトウもみじ』という品種の鶏を、非遺伝子組み換えのトウモロコシ、地場の魚粉、米ぬか、貝殻などを配合した自家製飼料で飼養している。開放鶏舎の中で平飼いすることでストレスのない環境を整えている。収穫した卵は丁寧に1個ずつきれいにふきとり鮮度を保っている。
- (2) 加工品：プリン、クッキー、シフォンケーキ（予約制）等
⇒卵を活用した菓子類を製造し、観光地や道の駅等で販売をしている。
- (3) そのほか：鶏ふん、ばれいしょ、にんじん、にんにく
⇒こだわりの飼料を与えて作られた鶏ふんは、農家が購入に訪れるほど良質な有機質肥料として、同施設の敷地内で生産される農作物の生産にも活用している。



4 障がい者就労への考え方

- (1) 開設当初、職員は一般就労の障がい者はお手伝いしてもらおう意識があり、障がい者がやりたくない仕事はしなくても良いとしていた。非営利活動法人として認定されてからは、施設の利用者が増え、職員と利用者の意識も、自分達の活動が社会に関わっていると感じるようになり、利用者は施設のルールに従った行動を取るようになった。
- (2) 最初は鶏を怖がる利用者も、日々鶏の世話をすることで鶏とのふれあいを楽しむようになり、今では積極的に集卵作業を行うなど、畜産業を通じて、利用者の癒やしや落ち着きにつながっている。

5 今後の予定や将来展望

今ある施設を更新しながら、さらなる卵を活用した事業を展開していきたい。